

西伊豆健育会病院

医療連携室 神田 純子(相談員)、山本 明子(正看護師)、稲葉 祐一(社会福祉士)

功 績	筋肉質経営へのチャレンジ、医療連携室による入退院支援・介護連携の標準化と収益向上への貢献した功績。
推薦者氏名	マネージングディレクター 大友悠平
推薦理由	従来出来ていなかった加算算定の仕組みを理解・実践する事で大幅に算定数を獲得する事が出来ました。また、仕組み化する事により担当交代時に対応出来る様な体制を構築し売上向上に貢献した事は理事長賞にふさわしいと考えます。

内 容

医療連携室では、安定した病床運用を目指し、稼働が低下した際には、外部への情報発信や医療機関への働きかけなどを行い、入院患者の確保に取り組んできました。

今年度は「筋肉質な経営」を意識し、これまで取得できていなかった各種加算について、要件や院内体制を見直し、取得に向けた取り組みを進めています。その中心となって活動しているのが、退院調整看護師の山本と、相談員の神田・稲葉です。

取り組み当初は、医療連携室内で業務を進めていたため、算定に必要な書類の確認や情報共有が十分ではなく、一部で算定漏れが生じました。そこで、再発防止に向けて医事課の入院担当者と連携し、書類作成後の確認方法や電子カルテ上での管理方法について協議しました。その結果、対象患者の把握から、書類作成、確認、算定までの一連の業務フローを構築しました。また、対象患者の選定に迷うこともあったため、前日までの入院患者について、カルテの内容や入院診療計画書を確認し、対象患者を確実に把握するための確認方法を整備しました。

入退院支援加算については、病床管理のExcel上で、作成依頼の対象患者であることが分かるように管理し、担当者への依頼から、書類作成、退院支援、算定までの流れを明確にしました。

介護支援等連携指導料についても対象患者のリストを作成し、1回目の指導は所定の担当者が行い、地域包括ケア病棟の患者については同病棟の担当者が対応するなど、担当者と役割を明確にしました。

対象患者の把握から、書類作成、支援、算定までの業務を整理・標準化することで、担当者が変わっても確実に対応できる仕組みを整え、入退院支援加算および介護支援等連携指導料の算定漏れを防ぐための継続的な運用体制を構築しました。

(入退院支援加算：12件/介護連携指導料：66件※二つとも前年算定実績なし)